

来週の「売り物」記事はこれ



2015年1月30日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

国産初のジェット旅客機

飛べMR J！ ニッポンの技術乗せ

2月1日（日）



三菱重工の子会社、三菱航空機が開発する初の国産ジェット旅客機「MR J（三菱リージョナルジェット）」が今春、初の試験飛行に臨みます。1965年の国産旅客機「YS 11」の就航から半世紀。すでに技術の継承は途絶えるなか、旅客機開発は



実質的に「ゼロからの開発」となりました。納入予定は当初の2013年から3度も延期になるなど、開発チームは苦闘続きでした。敗戦までは100万人の労働人口を擁し、年間2万5000機を生産する、世界屈指の規模を誇った日本の航空機産業。国も自動車以上に経済的な波及効果の大きい航空機産業の復興に力を入れようとしています。「日の丸」ジェット旅客機の開発にかけた技術者、経営者、官僚たちの物語を描きます。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

長期連載「戦後70年」シリーズの第7弾

原子の森 深く—第2部 孤高の闘い

朝刊2面 2月3日（火）から



9～10月に掲載し、好評だった「第1部 広島に謎」の続編です。広島で被爆後、中央公論社の編集者として原子力の文献を読みあさり、実名、筆名、匿名の3本の筆で記事を書き続けた森一久さん（1926～2010年）。その後、「原子力村」の中核に入り込んだのはなぜだったのか。孤高の闘いに挑んだ足跡を追います。担当は、地方部兼デジタル報道センターの藤原章生編集委員です。

今さらですが……

最近、新聞記事でよく見る「内部留保」って何？

夕刊2面特集ワイド 2月4日（水）

2015年春闘交渉が事実上スタートし、企業がどの程度の賃上げを行うのかが注目されています。それに関して新聞には「内部留保」という言葉が頻繁に出てきます。大企業は1997年のアジア通貨危機以降、2013年度までの15年間で約78兆円の内部留保を積み上げており、「貯め込みすぎで賃上げや設備投資に回すべきだ」との批判があるためですが、そもそも内部留保とはどんなお金なのでしょう。なぜ増えたのか、どういう対応が必要なのかなどを含め、専門家に「いろはの『い』」から聞きました。



「Tokiko's Kiss」

おんなのしんぶん  2月2日（月）



月1回連載中の加藤登紀子さんの対談コーナー。今回のゲストは、政治学者の姜尚中さんです。加藤さんが愛読している姜さんの著書「愛国の作法」から、「戦後70年」や近隣諸国との関係、世界平和などについて語り合っています。

スローらいふ～広がる社会人ボランティア

くらしナビ面 2月2日 (月)



休日や空き時間を利用して、地域でボランティア活動に参加する社会人が増えてい
ます。仕事を離れ、新たな出会いや社会のさまざまな課題に気付く機会になったり、仕事
で培った技能や経験を地域や社会の問題解決のために活かす取り組みも広がっています。
活動を始めたい人へのアドバイスも紹介します。

花粉対策をおしゃれに

くらしナビ面 2月3日 (火)

花粉症のシーズン到来です。今年の花粉の飛散量は、昨年より2～3倍になる地域もある
とか。マスクにメガネ、帽子など、花粉からの「完全防護」姿は「不審者」と見間違えら
れそうですが、おしゃれなグッズを使えば、見た目も気分も晴れやかに。明るい色合いや
おしゃれなデザイン、なおかつ機能性も高い衣類やメガネなどを紹介します。



企画「ありのままで 第87回センバツ注目選手紹介」

2月4日 (水) から8回



3月21日に開幕する第87回選抜高校野球大会(毎日新聞社、日本高校野球
連盟主催)。全国の頂点を目指す32校から、注目の選手を8回にわたって紹介
します。昨年の秋季関東大会で2試合連続完封し、優勝の原動力となった浦和
学院(埼玉)の江口奨理投手、秋季東北大会、明治神宮大会で優勝した仙台育
英(宮城)で軸を担う平沢大河選手、半世紀ぶりに秋季東海大会を制した静岡(静岡)の主将で4割
打者・安本竜二選手……。今年の開会式行進曲は昨年大ヒットした映画「アナと雪の女王」の劇中歌「L
e t I t G o～ありのままで～」です。球児の「ありのまま」の姿をお届けします。

2月12日(木) 5万号

今年の2月は毎日新聞にとって重要な月になります。創刊143年(21日)に加えて、
12日には、東京本社、北海道支社発行の号数(1面欄外)が5万号を迎えるからです。
現存する日本の新聞で5万号に到達するのは初めてです。

この歴史的な大記録を、編集編成局は紙面でアピールしていきます。1日朝刊に「ま
もなく5万号」の社告を掲載し、カウントダウンをスタートさせます。

対社面では「古くて新しい」をテーマにインタビュー連載を開始します。初回は将棋
の羽生善治永世名人です。ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英・京大名誉教授、福岡
ソフトバンクホークスの王貞治会長ら、経済、文化、医療、環境、スポーツなど幅広い
ジャンルの代表に発言をいただきます。全体で20回程度です。

また、5万号当日の12日朝刊では見開き2頁の特集面を準備し、①創刊号②1万号
(1904年)③2万号(32年)④3万号(59年)⑤4万号(87年)——という5つの時
代を毎日新聞がどう駆け抜けたのかを、ベテラン記者が総括します。

5万号をさらなる飛躍を期するステップにしたいと考えます。

